

1. ルビ機能を使った自由な文字配置例

1.1 基本：「ふりがな」としてのルビの標準的な使い方

もばらし モ バ ラ シ
茂原市 Mobara-shi

1.2 応用 1：説明文を一体化した表現

有機栽培のナッツがたっぷり
C H O C O N U T S


1.3 応用 2：サイズ違いの文字をまとめルビごと背景色をつけた装飾

【Lesson】
1

1.4 応用 3：文字を強調する傍点 + (色の設定)

ナルク茂原「いちごの会」へようこそ
ナルク茂原「いちごの会」へようこそ

2. 基本形：茂原市にふりがなを付ける。→ ^{もばらし}茂原市

「茂原市」を選択し、フォントのルビ  をクリックし、開いたダイアログボックスのルビ欄を確認。「もばらし」と書かれているので、変更する場合は変更し、OK とする。

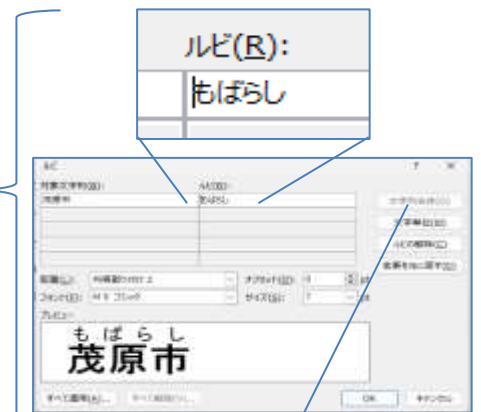
茂原市 → ^{もばらし}茂原市

Mobara-shi → ^{モ バ ラ シ}Mobara-shi

対象文字列が複数になる時は

文字列全体(G)

を選択する。



Word の「ルビ」機能を使って自在に文字配置


3. 応用 1：説明文をルビで一体化する。→

有機栽培のナッツがたっぷり
C H O C O N U T S

「CHOCONUTS」： フォント：MS ゴシック、太文字

- ・頭の C は大きめの文字サイズ 36
- ・残り HOCONUTS の文字サイズ 20

C H O C O N U T S

「HOCONUTS」を選択し、ルビ  をクリックし右図の赤囲いの様に設定する。

結果、下の様に説明文と一体化。


有機栽培のナッツがたっぷり
C H O C O N U T S

ルビ	
対象文字列(B):	ルビ(R):
HOCONUTS	有機栽培のナッツがたっぷり
配置(L):	均等割り付け 1
オフセット(O):	0
フォント(E):	UD デジタル 教科書体 NP-R
サイズ(S):	12

4. 応用 2：サイズ違いの文字をまとめルビごと背景色をつけ装飾 →

【Lesson】
1


- ・数字「1」を入力し、フォント MS ゴシック、サイズ 24 とする。




1 → 1 を選択し、ルビ  をクリック

開いたダイアログボックスのルビ等を下記のように設定し「OK」とする。

ルビ	
対象文字列(B):	ルビ(R):
1	【Lesson】
配置(L):	中央揃え
オフセット(O):	0 pt
フォント(E):	MS ゴシック
サイズ(S):	12 pt

文字列全体(G)
文字単位(M)
ルビの解除(C)
変更を元に戻す(D)

結果  の表示となる。

次に背景を緑とするため  を選択しホームタブ、段落にある塗りつぶし  で緑を選択。続けて文字を白抜きにするため、ホームのフォントの色メニューで白を選択。 → 

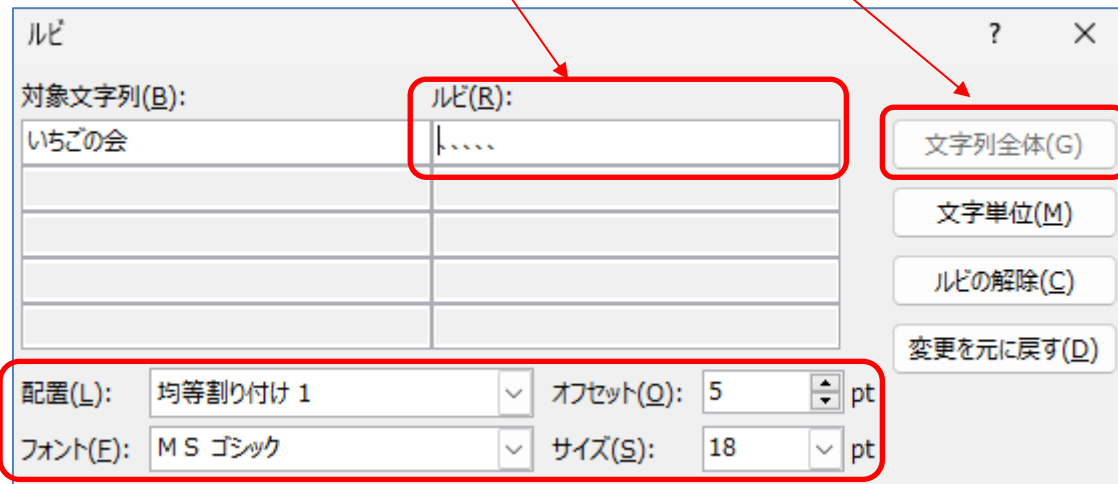
Word の「ルビ」機能を使って自在に文字配置

5. 応用 3 : 文字を強調する傍点 + 色の設定 → 「いちごの会」

- ・ 傍点を振る文字「いちごの会」を入力して、選択しルビの設定画面を開く

いちごの会 ルビに全角カンマを 5 個入力し、5 個のカンマを選択し、F8 キーで半角に変換する。文字列全体を選択。

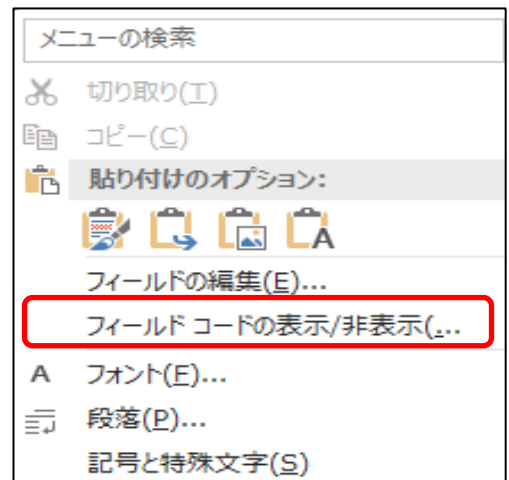
オフセットやサイズ等を設定したら「OK」をクリック。



上記の設定により「 いちごの会 」のようにルビとして傍点が付けられる。

・ 傍点に色を付ける。

対象の「いちごの会」を右クリックし開いたメニューの「フィールドコードの表示／非表示」を選択すると構文が現れるので、傍点部分を選択して、文字色の赤を指定する。



現れた構文の傍点を選択し、フォント色を赤とする。

```
{EQ ¥* jc1 ¥* "Font:MS ゴシック" ¥* hps36 ¥o¥ad(¥s¥up 16(、、、、),いちごの会)}
```

```
{EQ ¥* jc1 ¥* "Font:MS ゴシック" ¥* hps36 ¥o¥ad(¥s¥up 16(、、、),いちごの会)}
```

構文の傍点が赤になったら、構文を右クリックし、開いたメニューの「フィールドコードの表示／非表示」を選択するといちごの会の傍点が赤となって表示される。

いちごの会

以上